



# 占冠村・アスペン 姉妹都市提携30周年記念事業

～ 占冠村代表団アスペン市親善訪問の軌跡 ～

1月6日から13日までの8日間、松永英敬副村長を団長とする占冠村代表団11人が姉妹都市の米国コロラド州アスペン市を訪問しました。代表団は、アスペンの美しい街並みや歴史、文化に触れるとともに、温かく迎え入れてくれた現地の皆さんと友情を育み、今後も教育や文化、経済などさまざまな分野で交流していくことをお約束しました。占冠村代表団として参加された皆さんの感想をご紹介します。

## アスペン30周年記念事業を 終えて

団長(副村長) 松永 英敬

このたび村長の命を受け、姉妹都市提携30周年記念式典へ出席するため、占冠村代表団の団長として、26年ぶりに姉妹都市アスペン市を訪問しました。

これまで多くの村民とアスペン市民の皆さまが幾多の困難を乗り越え、昨年10月23日の占冠村での式典開催に続き、アスペン市30周年記念イベントという歴史的な行事に立ち会う機会を得て、両地域の友好関係の深さに感銘を受けるとともに、30年の歴史の重みを改めて認識するに至った素晴らしい式典でした。

記念式典では、多田教育長とともに占冠村を代表してスピーチを行い、アスペン市からは、トリー市長とデビッド・ポー教育長のスピーチがありました。また、在デンバール日本総領事館駐地勇首席領事からは「アスペンと占冠のパートナーシップは格別で、日本とコロラド州の絆の強化に大きく貢献している。アスペンと占冠のパートナーシップは、言語や習慣が異なる2つのグループを結びつける交流のお手本となるものです」との評価をいただきました。こうした評価を受けることが

できましたのは、30年以上にわたりアスペン市と占冠村の国際交流を途絶えさせることなく継続してきた両地域の関係者の並々ならぬ熱意とご尽力によるものであり、これまでお力添えをいただいた村民の皆さまにも改めて感謝を申し上げます。

## アスペン市を訪問して

村議会副議長 大谷 元江

このたび占冠村議会からの派遣者としてアスペン市を訪問しました。直接海外を訪問するのは初めてのことでしたが、アスペン交換留学でホストファミリーをしたことがあり、娘も交換留学でアスペン市への訪問体験をさせていたでいていましたので、ぜひ参加したいと考えておりましたし、この訪問は私にとって異文化を知る大事な経験となりました。

本訪問のメイン目的は姉妹都市提携30周年記念式典に参加することでしたが、滞在中は占冠村に関わりのある方々

との食事会や市議会訪問、歴史的・文化的な施設巡りなど、アスペン姉妹都市委員会にはきめ細やかなプログラムを組んでいただき、また常に手厚くサポートしてくださいましたおかげで充実した時間を過ごすことができました。感謝申し上げます。

何よりうれしかったのは、昨年10月にアスペン市代表団として占冠村を訪れ、私の家にホームステイしたジルさんとカリニーニョさんに再会できたことです。お二人からは「もう私たちは姉妹ね」と温かい言葉を頂いて大変感激しましたし、村民の皆さんにも、このようにアスペンの方々と国境を越えた友情を育んでほしいと感じました。

これからも、この姉妹都市交流が未永く続いていくよう私なりに取り組んでまいりますので、村民の皆さまにもお力添えのほどよろしくお願いいたします。

## アスペン市を訪問して感じたこと

村議会議員 下川 園子

私自身アスペンの方と交流できる機会が訪れたのは約5年ほど前でした。そして自身の子どもが派遣事業の対象となった際、初めて留学生の受け入れを経験しアスペン市と

の交流にとっても興味を持ちました。

今回コロナ禍で遅れてしまっていた30周年の記念式典の開催に当たりアスペン市を訪問させていただけたこと、このような機会を頂けたこと、大変感謝しております。アスペン市を訪れてみると、気候や自然環境の豊富さがとても似ているなど感じますが、スケールの大きさ、教育方針、日常のスタイルなど日本とは異なることばかりで衝撃を受けました。また滞在中のホームステイは人生初の経験で不安もありましたが、とても温かくホスピタリティあふれるサポートをしていただきました。そして日本の家庭ではお母さんがご飯を作り家事をするイメージが強いですが、私の滞在先や他の方の話を聞いてみるとお父さんがご飯を作ってくれる家庭が多いようで、ご本人たちはきっと意識されてはいないと思います。が、家事分担のスタイルが浸透して素敵だなど感じました。

占冠村では感受性豊かな中学2年生(後期課程8年生)という時期に中学生短期交換留学を経験させていただけました。この経験は子どもたちの未来への考え方がとても豊かになると考えます。これからも長く続けられるよう協力していきたいと思えます。

## アスペンを訪問して

中村 博

私は1987年と1999年、そして今回で計3回アスペンを訪問しました。

最初は姉妹都市になる前、アスペンの市民公園にイベント用の雪像づくりに派遣されたときです。占冠村をアピールするため当時アルファリゾートの職員と札幌から雪像づくりの専門家6人が参加し、アスペン市民のボランティアとスノークイーンのステイジ雪像をつくりました。作業をしていると公園を利用してある人から気軽に声かけがありました。街中にはおしゃれな街路灯があり今でも印象に残っています。

2回目は中学生短期交換留学事業の件で訪問し、占冠村から隔年の交流から毎年の交流を提案しました。アスペン側の評価も高く了承され、毎年相互交流する現在の形となりました。滞在中に二つの学校を案内され視察しましたが、市民の誰もがいつでも学校に来て授業を見られるようにと開かれた学校、授業でしかし以前事件があったようであるセキュリティが厳しく学校に入るために必ずチェックがありました。今回は3回目の訪問となりましたが、アスペン姉妹都市

## アスペン市訪問&30周年記念式典に参加して

赤石 秀明

委員会より赤石ファミリーと中村ファミリーが長きにわたる姉妹都市交流に貢献されたため功労者として表彰する話が届き、参加させていただきました。これも今まで交換留学に参加した中学生と引率された教諭、ホストファミリーとしてアスペン生徒を受け入れられた保護者の皆さんを代表して受賞したものと考えています。これからもアスペン市との交流が続くことを願ってやみません。

私は過去3回アスペン市を訪問しており、4回目の今回も大変素晴らしい訪問となりました。38年前にお会いした元市長のビル・スターリング氏、姉妹都市提携の前に占冠村に視察に来た元アスペン姉妹都市委員会委員長のレン・オレンダー氏、コミュニティプラザやショッピングモールを設計した建築家のジェームズ・A・ガスタフソン氏など多くの友人・知人に再会することができて感激しました。

また、アスペンの街並みは17年前に来た時と変わらず落ち着きがあった素敵でした。が、市役所も消防署も建て替えられて別の場所に移動して

いたり、各学校も新築されて素晴らしい近代的新建物に変わっていました。特に驚いたのはスノーマススキー場エリアの変化です。当時は閑散としていましたが、今ではコンドミニウムやスポーツジムなど素晴らしい近代的新建物がたくさんあって、まるで一つの街のようでした。これからもスノーマスはどんどん発展していくと思われれます。

今回の訪問のメインである30周年式典では多くのプログラムの組まれていましたが、中でも一番盛り上がったのが占冠中学生のよさこいソーランでした。踊りが始まると会場の雰囲気が一変し、終わると会場はスタンディングオベーションで拍手が鳴りやみませんでした。その後、アスペン姉妹都市委員会より、長年の姉妹都市交流に貢献してきた功労者として中村ファミリーとともに表彰され大変光栄でした。



遠かなるアメイジングクアスペン

橋本 陽

アスペンと30年という長い深い関わり合いを続けてこられた皆さま、このエキサイティングな派遣に関わって計画実行された皆さま、送り出してくれた家族や村の方々にとっても感謝しております。そしてこの旅でアスペンの方々、占冠とのつながりをとても大切に思ってくれていることを強く強く感じました。出発前からとてもたくさん素晴らしい出来事がありました。が、全てをお伝えすることはできません。少しの思い出とアスペンかぶれた気持ちをごさまにお伝えします。

姉妹都市交流に参加して

渡邊 舞子

私は今回、代表団の引率として参加させていただきました。小さい頃から外国に興味があり、アスペンにも以前から行ってみたいと思っていました。その機会をこんなにも早くいただけると思っていま

せんでした。アスペンに到着して2日目から、元ALTのベン・ペリンスキーさんのお宅にホームステイさせていただきました。アメリカの新聞に載っているレシピでスパゲッティを作ったり、電話でメキシコ料理を注文するのを見守ってくれていたり、スペイン語がちらほら聞こえる日系コンビニに連れていってくれたり、自分の初アメリカ旅行を楽しいものにしようと、全力でサポートしてくれました。受け入れてくれたベンさんには大変感謝しております。他の姉妹都市委員会のメンバーにも言えることです。初めて訪れる国なのに、最初から家族みたいに接してくれる方がたくさんいるなんて、最高だな！と思います。アスペンと占冠村が、姉妹都市交流で紡いできた、信頼関係の証なんだと感じました。アスペンの方は、人をもてなし慣れている、外の人を受

私の出発前の不安はホームステイでした。東の果てからヒゲの中年おじさんが突然やって来て数日間暮らすわけですから……。しかしその不安や緊張があったからこそ、アスペンの方々と気持ちを通じ合っていく過程が心地良かったのだと思います。ホストファミリーやアスペン姉妹都市委員会メンバーたちの心遣いにとっても助けられました。みんな本当にとっても優しいんです。この旅で特に印象的だったのは、姉妹都市交流30周年記念式典です。会場には大勢の来賓の方々が詰めかけていて緊張感が満ちていました。その中で行われた中学生たちのよさこいの演舞は、スタンディングオベーションとなる素晴らしい発表でした。この演舞はアスペンの方々の心に強く響いていました。

この式典の行われたアスペン学区には、同じ敷地内に保育園から高校まであります。授業には長い山道を使ったロングトレッキングキャンプ、冬場はロングクロスカントリィキャンプなど多数の課外活動がカリキュラムに入っていました。その経験なので、いよいよ、アスペンで暮らす人々は地域自然への関わりがとて、深く、野外で遊ぶ楽しそうな姿と健康的で豊かな心をめざす街づくりを随所に見ることができました。

私の娘が4年後にアスペンに行くことになりました。自分の子どもたちがいつか訪れるアスペンを知ることが貴重でエキサイティングな体験です。また今後もこのような村民の参加ができるのなら、この先に子どもたちが行くご家族の方にどしどし参加してほしいです。そしてみんなが少しずつアスペンを訪れることができれば、体感したくさんのアイディアと知恵が次なる自然体感占冠を創造する力になると信じています。

姉妹都市アスペンへ

長谷川 勘太郎

流行りはアメリカからやってくる。ハリウッド映画を観て、洋楽を聞き、英字シャツを着る。知っているつもりなのに、アスペンがアメリカのどの辺だか知らなかった。

このたび、光栄にも代表団に選んでいただきました。村の発展へ向けた知見を得ることを本懐としつつ、アメリカを知るチャンスと考えておりました。たどり着いたアスペンは白人街で、美しい街並みと相まって、スクリーンの中にある別荘が山の中腹で荘厳さとアメリカンドリームを輝きを放っている。巨大なピクアップトラックやバンに私が縮

け入れるということに余裕があるように感じました。4日目に訪問した歴史協会では、アスペンの歴史について説明していただきました。説明の中で、「アスペンに来る人は皆、アスペンの一部」という表現がありました。現在、占冠村の3人に1人は外国籍の方ですが、自分たちが余裕をもって誰でも受け入れられる体制になっているのかは、役員職員として考えさせられるところがありました。また、他の代表団の皆さんともお話ししましたが、アスペンと姉妹都市交流をもっと村民の方に知ってもらいたい、参加してもらいたいという気持ちになりました。今後素晴らしいつながりがずっと続くように、これからも姉妹都市交流に関わっていきたく思います。

アスペンを訪れて

大谷 淳貴

このたび代表団の引率として初めてアスペンを訪問しました。海外渡航経験に乏しく、英語もからっきしなので行く前は不安でいっぱいでしたが、アスペンの皆さんが温かく迎え入れてくださり、常に私たちが気にかけてくださったおかげで、安心して滞在を楽しむことができました。

んでしまった気がした。甘過ぎるケーキやクッキーに喉を灼かれ、ホームステイ先で食べる家庭料理の美味しさに胸が熱くなる。広大なスキー場には感激の嘆声とその標高(約3500m)に心肺が悲鳴を上げた。トマムリゾートはアスペンを参考に作られたと聞き及んだが、納得。素敵なアメリカが詰め込まれた地、アスペン。美しく雄大な自然と風情のある街並みに惹かれ、世界中のセレブが別荘を建て、結果的にアメリカ随一の治安と高い物価の地……。住人との会話で印象深かった一節「私たちはリベラルで反トランプだから次の選挙には注目している」との言。大統領で国のカラーが変わるアメリカ。異文化に触れ、ある資本主義と合理の到達点を観た旅となりました。そして占冠村が素晴らしい都市と姉妹都市であることが誇らしくなりました。

アスペン派遣事業に参加して

大野 梢

このたびのアスペン派遣事業では、現地での式典や市議会訪問、教育現場やスキーリゾート視察、占冠村の中学生も交えた現地学生との交流などを体験させていただくことができました。

ホームステイでは各家庭へ1人ずつがお世話になり、朝夕の食事を共にしお互いの国や暮らしの話をしたりと、とても有意義な時間を過ごすことができました。また今回の事業で、普段の生活ではなかなか交流する機会の少ない議員の方々と役員職員の皆さんと一緒に行動し同じ時間を共有できたことは住民としても素晴らしい収穫であり、より理解を深める良い時間になったと考えます。

スノーマスキーリゾートでは、以前占冠村で英会話を教えてくださったベンさんもグレンデの案内人として同行してくださり、現地の方々も交えて楽しくスキーをすることができました。またホームステイ先のエイミーさん(学校の校長先生)が、忙しい中、毎日美味しい食事を作ってくださったこと(特に熱々のパンプディングが最高においしく、レシピを教わりました)も新鮮で心に残っています。

アスペンでの体験が占冠村での暮らしをさらに良いものにしてくれることは間違いなく、そして1人でも多くの村民の皆さんがまたアスペンで素晴らしい体験ができるよう、これからも事業に携わっていきたく思います。30年間続いている友好と、それを支える占冠村の皆さんに心から感謝いたします。

占冠村代表団スケジュール

日にち	活動内容
1/6(土)	出発 アスペン市に到着(時差-16時間のため同日到着)
1/7(日)	アスペン市街散策 姉妹都市提携30周年記念式典
1/8(月)	アクティビティ等体験(スノーマス) スノーマス議会訪問
1/9(火)	歴史協会訪問 アスペン姉妹都市委員会主催昼食交流会 アスペン市議会訪問
1/10(水)	アスペン学区訪問 ACES(アスペン環境研究所)訪問 フェアウェルディナー
1/11(木)	アスペン・コミュニティ・スクール訪問 ホテルジェロームツアー アスペン姉妹都市委員会訪問 アスペン市を出発
1/12(金)	飛行機移動
1/13(土)	帰国

30周年記念式典プログラム(1/7)

国旗行進
歓迎あいさつ
姉妹都市ソング「We Are One」歌唱
姉妹都市交流の歩み「History of Sister Cities」上映
占冠村代表団の紹介
アスペン・占冠村代表者、来賓あいさつ
元ALTベン・ペリンスキー氏による琴演奏
アスペン中学生によるプレゼンテーション
占冠村中学生・後期課程生による自己紹介 よさこいソーラン披露
功労者表彰：赤石ファミリー 中村ファミリー カマラ・マーシュ氏 コーリー・ルックス氏
アスペン市宣言
ジョン・デンバーソング歌唱